

課 題 越前水仙圃場改良試験（れきの撤去）

担当者 石井 大樹

1 背景・ねらい

平地における水仙栽培は斜面での栽培よりも作業負担が少なく、機械化もしやすい利点があるが、越廼地区において、水田跡地での水仙栽培では品質の良い水仙が育っていない傾向があることが課題となっている。

そこで、生育不良の原因を探るため、令和 4 年度に浜北山町に試験圃場を設定し、土層と土壤硬度、三相分布、透水性、化学性を調査し、その結果に基づいた土壤改良（れきの撤去、土壤改良資材の施用）と、平地栽培に適した球根の栽植密度の設定に係る調査を行った。

今年度は改良後の水仙の生育状況についての調査結果を、各施工テーマ（れきの撤去、土壤改良資材、栽植密度）にてまとめ、報告する。

2 試験構成及び結果

本試験は、根域を確保することによって生育改善を図ることを目的に、圃場に埋没する地下 30cm までのれきを撤去し、その効果を検証した。

各試験区では、開花球（30g 以上で、当年の開花が予想される球根）と養成球（29g 以下の小さい球根）を使い、それぞれの生育状況を調査した。

越廼地区の試験圃場にて 10 月 24 日から翌 1 月 22 日まで生育調査を行い、収穫は 12 月 26 日から翌 1 月 22 日まで行った。収穫及び調査は JA 福井県越前水仙出荷基準に該当するもののみ実施した。

試験区	れき	堆肥	栽植密度
1 区	撤去	無施用	8 条植え（8,000 球/a）
2 区			6 条植え（5,454 球/a）
3 区			坪植え（4,800 球/a）
4 区（対照区）	未撤去		8 条植え（8,000 球/a）
5 区（対照区）			6 条植え（5,454 球/a）
6 区（対照区）			坪植え（4,800 球/a）

れきを撤去した 1～3 区では、未撤去の 4～6 区と比べて、葉長が長かった。（図 1, 2）花茎長は一部の定植方法では差がみられなかったものの、概ね 1～3 区の方が長い傾向であった。また、4～6 区は全体的に花茎の発生が遅い傾向であった。（図 3, 4）収穫物においては、収穫量の差が大きく、4～6 区では出荷基準を満たす水仙がほとんどなかった。また、葉長も 1～3 区の方が長かった。（表 1）

以上のことから、撤去区の方が葉長、花茎長とも未撤去区よりすぐれたとの

結果が得られた。これはれきの撤去や施工による土壌耕起により水仙の根張りがよくなり根域が確保されたことで水仙の生育改善につながったと考えられた。

3 今後の展開・活用

今回の結果では、れきの撤去工事による生育改善効果が示唆されたが、その効果の持続性を確認するため、試験圃場での調査を継続する。

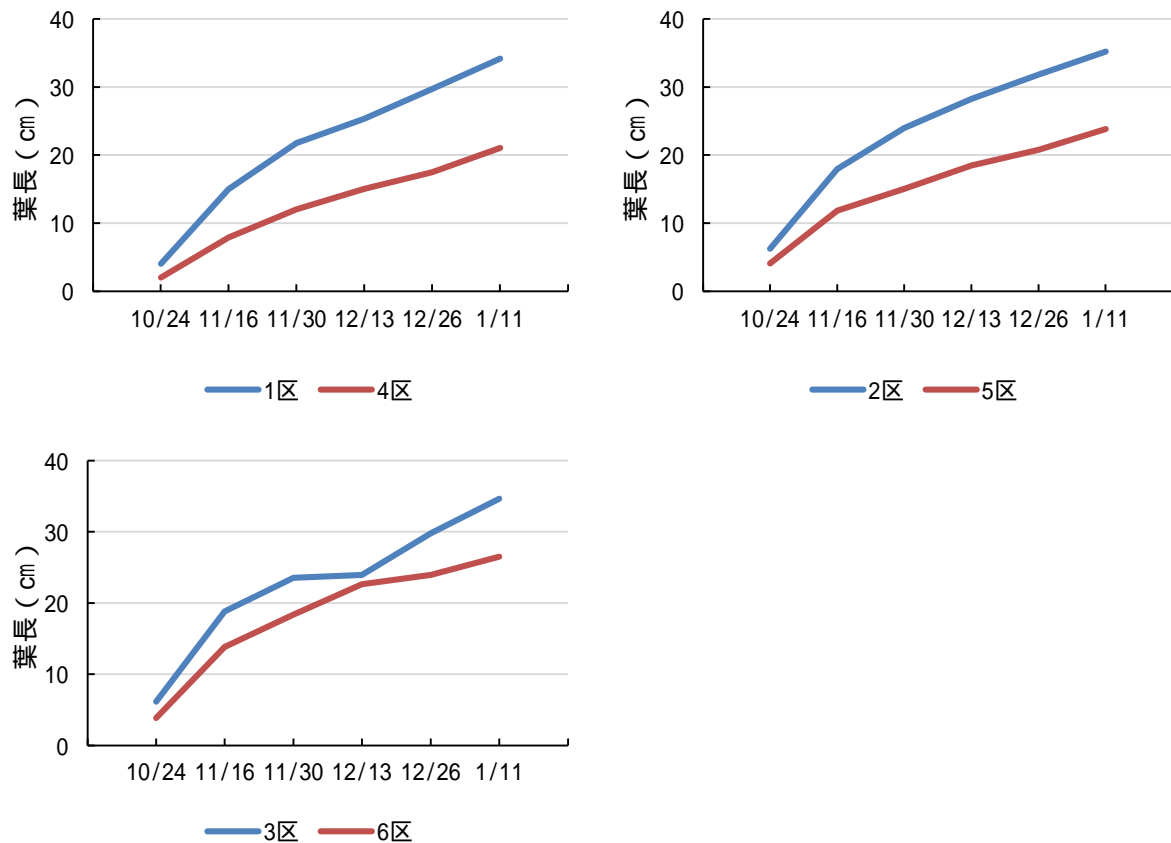
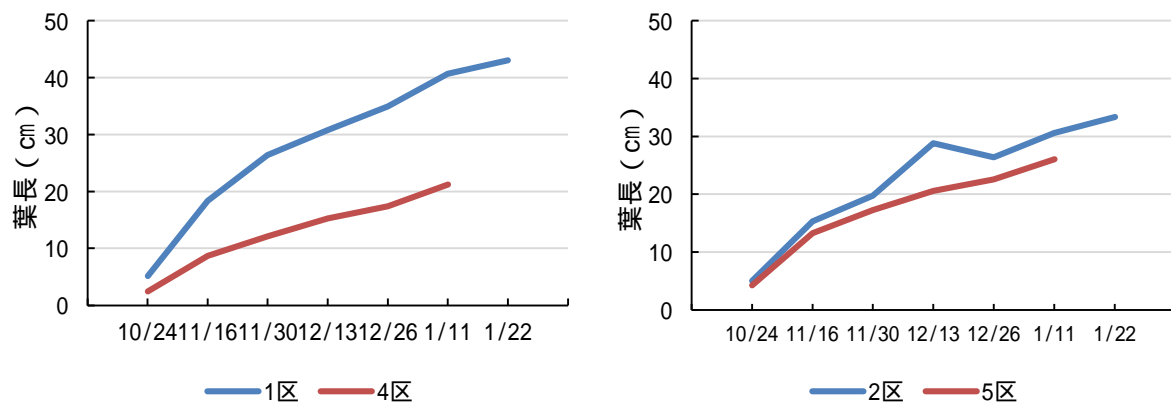
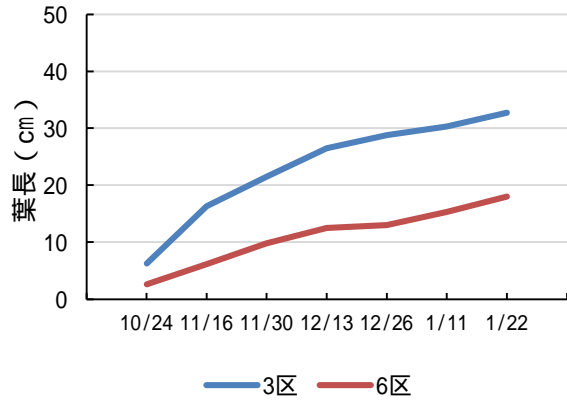


図 1 葉長の推移（開花球）





4区、5区は1月11日の調査以降に獣害を受けたため、1月22日の調査ができなかった。

図2 葉長の推移（養成球）

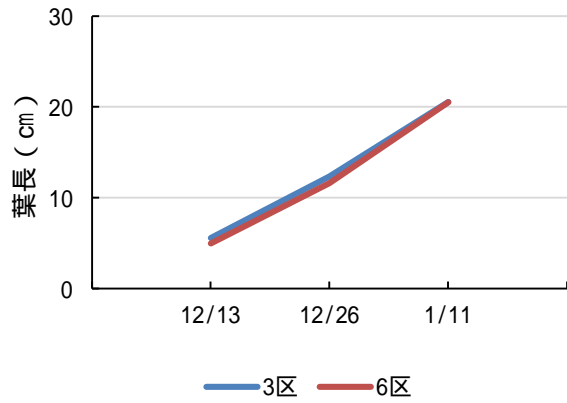
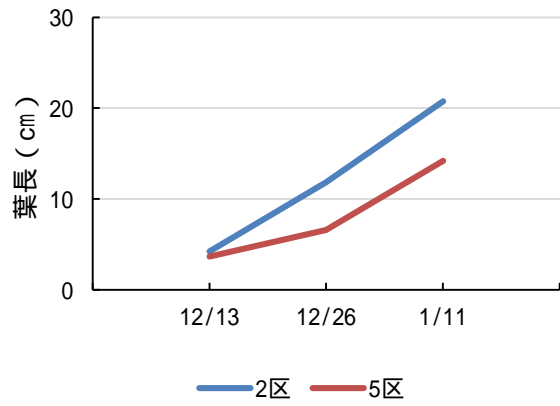
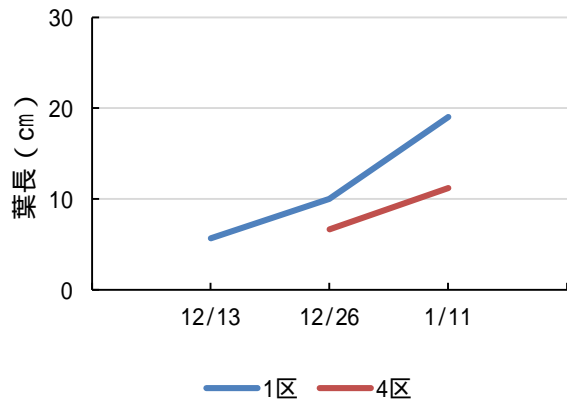
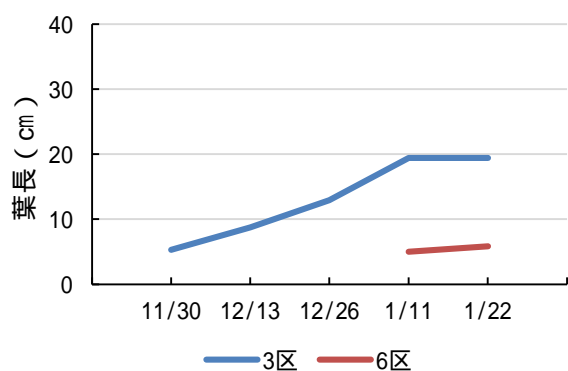
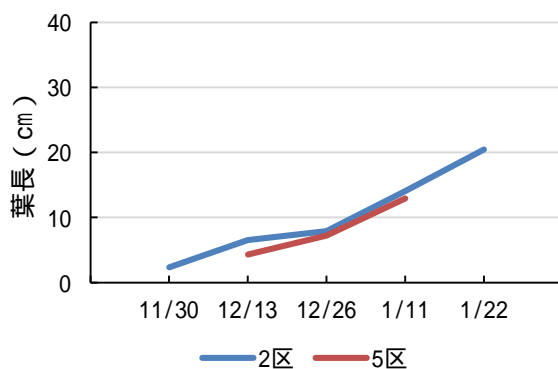
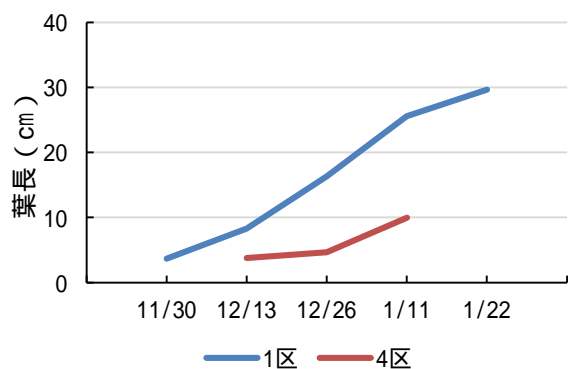


図3 花茎の推移（開花球）



4区、5区は1月11日の調査以降に獣害を受けたため、1月22日の調査ができなかった。

図4 花茎の推移（養成球）

表1 収穫物調査（収穫日：12月26日～1月22日）

試験区	収穫本数	定植本数	葉長	花茎長	葉数	花数	はかま長
1区	200	480	49.0	36.3	4.0	4.3	5.7
4区	4	400	40.3	35.7	3.0	4.5	5.5
2区	147	327	46.0	36.8	3.6	4.6	5.3
5区	7	297	40.7	36.6	3.4	4.0	6.3
3区	51	288	45.3	37.8	3.4	4.1	4.9
6区	6	240	37.8	36.3	1.8	4.3	4.2

(参考)

越前水仙の出荷規格表

規格名	花首長	備考
え - 4	40 ~ 50cm	4 枚葉 (はかまの長さは十分に確保する)
え	40 ~ 50cm	3 枚葉
ち - 4	50cm 以上	4 枚葉 (はかまの長さは十分に確保する)
ち	50cm 以上	3 枚葉
ぜ	35 ~ 40cm	
ん	30 ~ 35cm	
水	40cm 以上	赤葉、首長
仙	40cm 以下	赤葉、首長

花は、3 輪以上付いたもの

葉の長さと花茎長は調和のとれたものとする

本試験では、(葉長)-(花首長) = 7 ~ 10cm を調和のとれたものとする

葉先は正常なものとする

はかまは 4cm 以上とする